

日能研	4年		
	算数		
学習内容	6月の学習内容 15回 平行四辺形・三角形の面積 16回 台形・ひし形の面積 17回 周期とあまり 18回 等差数列		
家庭学習ポイント	第15回、16回は面積について学びます。15回は平行四辺形と三角形の面積です。平行四辺形は面積の大きさが同じ部分を移動させ、長方形として面積が求められること、また三角形はその半分の面積と考えて求められることから公式を理解しておくことが大切です。いずれも「高さ」を正しく捉えることが大切で、三角形の場合は鈍角三角形（最も大きな角の大きさが直角より大きいもの）について間違わないよう注意が必要です。常に高さは「底辺（の延長）に対して垂直の関係にあるもの」と捉えるようにしましょう。第17回、18回は規則性の学習です。「周期とあまり」では、周期的に並ぶ記号や数字について学びます。横一列に数字や記号が並ぶ問題、カレンダーのように数個ずつ数字が表上に並ぶ問題など様々なパターンがありますが、すべきことは常に「いくつずつの数字や記号で1つのサイクルが構成されているか」を利用することです。周期の部分は計算で、あまりの部分はそれに付け足す形で考えるといいですね。「等差数列」は数列の中でも最もよく出てくるもので「□番目の数」を求める際に「数字の個数が数字と数字の間の個数より1多い」ということをしっかり意識することです。闇雲に公式を丸覚えすることがないよう気をつけたいですね。		
課題の把握と解決策	チェック1	三角形の「高さ」を正しく見つけられますか？	チェック
	解決策	つねに「高さは「底辺（の延長）に対して垂直の関係にあるもの」と意識しましょう	□
	チェック2	平行四辺形の面積が長方形と同じように求められる理由を正しく説明できますか？	チェック
	解決策	端の三角形の部分を切り取って逆側に付け足す、ということが説明できるといいですね	□
	チェック3	周期的に並ぶ数字の「□番目」を正しく計算することができますか？	チェック
	解決策	周期部分は計算で、あまり部分は数え出しで、を意識しましょう	□
	チェック4	等差数列の「□番目の数字」を正しく計算することができますか？	チェック
	解決策	「+1」「-1」を丸覚えの公式で処理しないように気をつけましょう	□
	チェック5	等差数列の合計を計算する公式について正しく説明できますか？	チェック
解決策	等差数列を逆順に引っくり返したものをもとの等差数列に足すと...といった説明ができるとうOK	□	
日能研	4年		
	国語		
学習内容	6月の学習内容 15回 具体例② 16回 結論① 17回 結論② 18回 ことばあそび		
家庭学習ポイント	今月は論説文を中心に学習を進めていきます。15回、18回は「具体例」について学びます。論説文では1つのテーマについて、抽象的な説明と具体的な説明の両方を示しながら説明していきます。「具体例」とは「まとまりの中から、絵がくっきりと浮かびやすいものを取り出して説明したもの」です。たとえば「生物」という抽象的なものから「セキツイ動物」を取り出し、さらに「セキツイ動物」というまとまりの中から「哺乳類」という具体例を取り出す、といったイメージです。読解の中では「わかりにくい（抽象的な）表現が出てきたら、そのことをわかりやすく（具体的に）説明している部分を探す、ということですね。16回、17回は「結論」についてです。「結論」は「話題」と混同しやすいのですが、「話題＝筆者が何について話しているか」であり「結論＝結局のところ筆者が一番言いたかったことは何か」ということです。話題が文章の冒頭に示されることが多いのに対して、結論は文末に示されることが多く「つまり」「要するに」「このように」といったキーワードがヒントになります。		
課題の把握と解決策	チェック1	文章の「話題」を正しく読み取れていますか？	チェック
	解決策	文章中で話題が変わることもあるので注意しましょう	□
	チェック2	具体例が「筆者の言いたいこと」と勘違いしていませんか？	チェック
	解決策	具体例は筆者の言いたいことを、わかりやすく身近な例で表現したものです。	□
	チェック3	文章の「結論」を正しく読み取れていますか？	チェック
	解決策	結論が正しく読み取れば、要約も容易になります	□
	チェック4	「抽象」と「具体」のイメージを正しく掴んでいますか？	チェック
	解決策	「具体例＝まとまりの中から、絵がくっきりと浮かびやすいものを取り出して説明したもの」です	□
	チェック5	文章全体の要旨（つまりどういう話だったのか）をすぐに説明できますか？	チェック
解決策	マンガなどを使って練習する方法もあります	□	

日能研	4年		
	理科		
学習内容	6月の学習内容 8回 物の重さと体積 9回 物の体積変化		
家庭学習ポイント	<p>第8回は「物の重さと体積」について学習します。同じ体積あたりでくらべると重いもの（密度が大きいもの）と軽いもの（密度が小さいもの）があることからですね。金属どうしを比べても同じ体積あたりの重さは違います。金属の密度は大きさ順にある程度覚えておいたほうがいいでしょう（金19.3g/cm³>銀10.5g/cm³>銅8.9g/cm³>鉄7.9g/cm³>アルミニウム2.7g/cm³）。気体では空気を基準に「二酸化炭素>酸素>空気>ちっ素>アンモニア>水素」くらいを覚えておくといいですね。</p> <p>第9回は「物の体積変化」です。物質は温度の変化によって「温度が高くなる⇒膨張する（体積が大きくなる）。温度が低くなる⇒収縮する（体積が小さくなる）」という変化についてです。気体や液体は高温になると「同じ重さのまま体積が大きくなるので、同じ体積あたりでくらべると軽くなる⇒上昇する（対流が起こる）」という上昇気流や風が起こる原理にもなっていますね。覚えるべきことは多くない单元ですので、確実に知識をつけておきましょう。</p>		
課題の把握と解決策	チェック1	同じ体積でくらべると「金属＝重い」「気体＝軽い」というイメージを持っていますか？	チェック
	解決策	身近なものの重さと体積のイメージを持っているか、あらためてチェックしてみましょう	□
	チェック2	身近なところに使われている金属についてアンテナが立っていますか？	チェック
	解決策	飲料の缶などが何でできているか確認してみましょう	□
	チェック3	温度が上がると物は膨張する、という例を体験したことはありますか？	チェック
	解決策	からのペットボトルに蓋をして冷やす⇔常温に戻すといった実験をしてみましょう	□
	チェック4	温度計の原理を説明できますか？	チェック
	解決策	球部に入れた液体（アルコール）の膨張と収縮を利用しています	□
	チェック5	風がふく原理を説明できますか？	チェック
解決策	「空気があたたまる⇒膨張する⇒同じ体積あたりの重さが小さくなる⇒上昇する」ですね	□	
日能研	4年		
	社会		
学習内容	6月の学習内容 8回 日本を8つの地方に分ける 9回 日本を47の都道府県に分ける		
家庭学習ポイント	<p>いよいよ地方別地理の学習に入っていきます。第8回では日本を北海道・東北地方・関東地方・中部地方・近畿地方・中国地方・四国地方・九州沖縄地方に分け、それぞれの地方の地形や自然環境、産業などについて大まかに習っていきます。第9回では更に詳しく47都道府県について学習します。この2つの单元では8つの地方と47都道府県の名前、形、位置を覚えること、県境となる山地や半島、川などについても記憶することが重要です。この記憶が今後の地理学習のベースとなります。ぜひすべての都道府県名を漢字で書けるようにしておきましょう。「竹島＝島根県」「小笠原諸島＝東京都」といった具合に、特定の地域を所属する都道府県とともに覚えておくことも重要です。</p>		
課題の把握と解決策	チェック1	日本の8地方をすべて漢字で書けるようになりましたか？	チェック
	解決策	ハードルも高くない作業です。日本地図上の位置も覚えておきましょう	□
	チェック2	日本の47都道府県をすべて漢字で書けるようになりましたか？	チェック
	解決策	こちらはハードルの高い作業ですが、時間がかかっても身につけておく価値があります	□
	チェック3	都道府県の形をシルエットで示されたら答えられますか？	チェック
	解決策	入試問題では日本地図どおりの向きでないものが出題されるので確実な知識が必要です	□
	チェック4	日本のおもな山地・山脈・平野・川などの位置がだいたい把握できていますか？	チェック
	解決策	こちらもハードルの高い作業ですが、時間をかけてでもやっておきましょう	□
	チェック5	地理の学習に地図帳と白地図を併用していますか？	チェック
解決策	今後の地理の学習のスタンダードスタイルにしていきましょう	□	